



2023年7月28日

各 位

会 社 名 日糧製パン株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉 田 勝 彦
(コード：2218、札証)
問合せ先 取締役経理本部長 那 須 英 幸
(TEL. 011-851-8188)

(訂正・数値データ訂正)「2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」の
一部訂正について

当社は、2023年1月27日に公表しました「2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」に一部訂正すべき事項がありましたのでお知らせいたします。また、数値データにも訂正がありましたので訂正後の数値データも送信いたします。

記

1. 訂正の内容と理由

訂正内容と理由につきましては、別途、本日(2023年7月28日)付「過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度の決算短信等の訂正に関するお知らせ」にて開示しておりますのでご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正箇所は____線を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから訂正事項については、訂正後のみ全文を記載しております。

以 上



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年1月27日

上場会社名 日糧製パン株式会社 上場取引所 札
 コード番号 2218 URL <http://www.nichiryopan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 勝彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理本部長 (氏名) 那須 英幸 (TEL) 011-851-8188
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	13,111	1.4	171	△30.4	217	△13.7	136	△19.9
2022年3月期第3四半期	12,932	0.9	246	△7.1	251	△6.0	170	△11.5

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2023年3月期第3四半期	65	18	—	—
2022年3月期第3四半期	81	38	—	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2023年3月期第3四半期	14,390	4,998	34.7
2022年3月期	14,292	4,860	34.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 4,998百万円 2022年3月期 4,860百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年3月期	—	—	—	15.00	15.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,400	1.4	280	11.9	280	8.5	170	13.3	81.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年3月期3Q	2,103,948株	2022年3月期	2,103,948株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2023年3月期3Q	10,840株	2022年3月期	10,737株
------------	---------	----------	---------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年3月期3Q	2,093,149株	2022年3月期3Q	2,093,308株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	P. 3
(1) 四半期貸借対照表	P. 3
(2) 四半期損益計算書	P. 5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	P. 6
(継続企業の前提に関する注記)	P. 6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 6
(追加情報)	P. 6
(セグメント情報)	P. 6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間(2022年4月1日～2022年12月31日)における北海道の経済環境は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限が緩和され、経済活動の回復傾向が進み緩やかな持ち直しの動きが見られたものの、新たな変異ウイルスの感染者増、物価高の進行、為替変動や地政学リスク等の懸念もあり、先行き不透明な状況で推移しました。当業界におきましては、お客様の節約志向が強まる市場環境のなか、主原料の小麦粉、糖類、包材等の原材料価格や、ガス、電気等のエネルギーコストの上昇に加え人手不足感の強まりもあり、収益が圧迫される厳しい経営環境となりました。

このような情勢下におきまして、当社は、「おいしく、北海道らしく。」の方針と、日々お客様へ安全・安心な製品を安定して供給する使命に基づき、科学的根拠に基づく感染防止対策に全社を挙げて取り組みつつ、日常業務の着実な遂行に努めてまいりました。また、生産、販売、管理の各部門における業務の見直しや諸経費の抑制に努め、経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

製品別の売上状況につきましては、食パン部門は、主力の「絹艶」シリーズにおいて、新製品「絹艶 山型」を投入し品揃えを強化したことにより伸長したほか、「イギリス食パン」や低価格食パンが伸長し、前年同期の売上を上回りました。菓子パン部門は、「The Takasui」シリーズのドーナツや、複数個入り食卓ロール「もっちり道産米粉」シリーズ等が寄与したほか、値頃感のある製品を積極的に開発、拡販し、前年同期の売上を上回りました。和菓子部門は、北海道産原料を使用したロングライフ製品「福かまど」シリーズが好調に推移するとともに、しっとり食感を追求した「極(きわみ)」シリーズ新製品の饅頭や蒸しパンの寄与もあり、前年同期の売上を上回りました。洋菓子部門は、「北海道牛乳のレアチーズケーキ」シリーズやロールケーキ等のチルド製品を積極的に拡販しましたが、シフォンケーキや「クラフトベイク」シリーズ等スナックケーキ類の伸び悩みもあり、前年同期の売上を下回りました。調理パン・米飯部門は、主力の「絹艶サンド」、具材をたっぷり入れた食べ応えのある「具たくさんおにぎり」や井もの製品が順調に推移したことに加え、セットおにぎりの「海老天むす」が寄与するなど、前年同期の売上を上回りました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績につきましては、売上高は13,111百万円(対前期比101.4%)、営業利益は171百万円(対前期比69.6%)、経常利益は217百万円(対前期比86.3%)、四半期純利益は136百万円(対前期比80.1%)となりました。2022年7月から食パンと一部の菓子パンの価格改定を実施するとともに、和菓子、洋菓子を含めて、お客様のニーズに沿った高付加価値製品やお買い得感のある製品を積極的に展開し業績の確保に努めてまいりましたが、特にエネルギーコストの高騰分を吸収しきれず増収減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における資産合計は14,390百万円で前事業年度末に対し97百万円増加しました。流動資産は4,920百万円で主に現金及び預金が211百万円減少し、売掛金が387百万円、原材料及び貯蔵品が85百万円増加した結果、前事業年度末に対し231百万円増加しました。固定資産は9,469百万円で主に有形固定資産が127百万円、繰延税金資産が46百万円減少し、投資有価証券が43百万円増加した結果、前事業年度末に対し133百万円の減少となりました。負債合計は9,392百万円で主に支払手形及び買掛金が121百万円増加し、長期借入金(1年内返済予定含む)が42百万円、賞与引当金が108百万円減少した結果、前事業年度末に対し40百万円減少しました。純資産合計は4,998百万円で主に利益剰余金が105百万円、その他有価証券評価差額金が32百万円増加した結果、前事業年度末に対し137百万円増加しました。

この結果、当第3四半期会計期間末における自己資本比率は34.7%、1株当たりの純資産は2,387円89銭となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、北海道経済は、新型コロナウイルス感染症対策と経済活動の両立が進み、持ち直しの動きが弱いながらも見られる一方で、地政学リスクや物価高騰の影響もあり景気の先行きは不透明な状況が続くことが予想されます。当業界におきましては、お客様の節約志向により消費が伸び悩むなかで、原材料価格やエネルギーコストの高騰と賃金の上昇が今後も見込まれ、経営環境は厳しさを増すものと予測されます。

このような情勢下におきまして、当社は「おいしく、北海道らしく。」の方針のもと、生産・販売・管理が一体となり各部門の小委員会活動を活用して製品施策・営業戦略を着実かつ迅速に実践・実行・実証するとともに、全社を挙げて各現場に即した5S活動を徹底し、業務の効率化と安全安心な職場づくりの両立といった内部管理の充実に努め、経営課題に着実に対処してまいります。各種コストが高騰するなか、引き続きお客様へ安全・安心な製品を安定して供給するため、2023年1月から、一部の和洋菓子と米飯製品の価格改定を実施いたしますが、今後も、多様化するお客様のニーズに即した新製品の開発と積極的な拡販に取り組み、業績向上に努めてまいります。

なお、2023年3月期通期に関する業績予想につきましては、2022年5月13日に公表した内容から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,189,824	1,978,452
受取手形及び売掛金	2,140,334	2,527,406
商品及び製品	45,512	15,369
仕掛品	26,662	23,397
原材料及び貯蔵品	223,285	308,455
その他	64,338	67,941
貸倒引当金	△187	△220
流動資産合計	4,689,771	4,920,802
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,409,821	2,346,543
機械及び装置(純額)	1,466,285	1,400,699
土地	4,662,405	4,662,405
その他(純額)	258,904	260,230
有形固定資産合計	8,797,416	8,669,878
無形固定資産		
その他	66,460	51,599
無形固定資産合計	66,460	51,599
投資その他の資産		
投資有価証券	538,081	581,427
投資不動産(純額)	43,800	43,800
繰延税金資産	143,966	97,560
その他	13,512	25,050
貸倒引当金	△251	-
投資その他の資産合計	739,108	747,838
固定資産合計	9,602,986	9,469,316
資産合計	14,292,757	14,390,118

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,993,260	2,114,674
短期借入金	650,000	650,000
1年内返済予定の長期借入金	883,276	907,500
未払法人税等	89,357	11,905
賞与引当金	198,046	89,149
その他	1,140,857	1,218,195
流動負債合計	4,954,797	4,991,424
固定負債		
長期借入金	1,652,500	1,585,500
再評価に係る繰延税金負債	1,190,579	1,190,579
退職給付引当金	1,542,752	1,523,682
役員退職慰労引当金	84,524	94,084
その他	7,190	6,730
固定負債合計	4,477,545	4,400,575
負債合計	9,432,342	9,392,000
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,051,974	1,051,974
利益剰余金	886,309	991,342
自己株式	△14,962	△15,175
株主資本合計	1,923,321	2,028,141
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	242,752	275,636
土地再評価差額金	2,694,340	2,694,340
評価・換算差額等合計	2,937,093	2,969,977
純資産合計	4,860,414	4,998,118
負債純資産合計	14,292,757	14,390,118

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	12,932,503	13,111,209
売上原価	9,305,576	9,523,854
売上総利益	3,626,926	3,587,354
販売費及び一般管理費		
販売費	2,769,470	2,782,524
一般管理費	611,126	633,431
販売費及び一般管理費合計	3,380,596	3,415,955
営業利益	246,330	171,399
営業外収益		
受取利息	9	9
受取配当金	14,101	17,555
受取賃貸料	6,558	6,241
受取保険金	458	33,374
その他	5,907	8,644
営業外収益合計	27,035	65,824
営業外費用		
支払利息	21,584	19,993
その他	0	0
営業外費用合計	21,584	19,993
経常利益	251,781	217,230
特別利益		
固定資産売却益	2,616	2,149
特別利益合計	2,616	2,149
特別損失		
固定資産売却損	547	-
固定資産除却損	8,967	7,457
特別損失合計	9,515	7,457
税引前四半期純利益	244,883	211,922
法人税等	74,534	75,491
四半期純利益	170,348	136,431

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(不適切な会計処理)

当社は、「現場在庫」と呼ばれる棚卸資産(仕掛品及び原材料の一部)において不適切な会計処理が含まれている可能性が判明したため、社内調査を進めましたが、調査の過程において特定部門で、「現場在庫」の棚卸金額の著しい増加と、それを意図的に過大計上しているとの不正な会計処理がなされた疑いを確認しました。

これを受けて、当社は、2023年5月18日、不適切な会計処理の有無及び内容等の実態解明、再発防止策の策定等をし、株主をはじめとしたステークホルダーに対する説明責任を果たすことを目的として、外部有識者を委員に含めた特別調査委員会の設置を決定し、調査を進めてまいりました。

2023年7月27日に特別調査委員会から調査報告書を受領し、当社において、過去から一部の従業員による実地棚卸に基づかない棚卸報告がなされており、当該不正行為により仕掛品及び原材料残高が過大に計上されていたことの報告を受けました。

当社は一連の不正行為により計上された仕掛品及び原材料残高について、実際の仕掛品及び原材料残高への復元ができないことから、前事業年度末及び当第3四半期会計期間末の仕掛品及び原材料については、棚卸不正発覚後に実施した実地棚卸に基づいて算定した回転期間を用いて算定する方法によりそれらの残高を改めて算定しております。

(セグメント情報)

当社は、食品関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。